

東京大学国際卓越大学院人文社会系研究科「次世代育成プログラム」 令和5年度 修士課程プログラム履修生募集要項

1. 目的と概要

専門分野における優れた研究能力を備え、同時に分野を横断した広い視野に基づいて、先端的な新領域の開拓、国際的な発信について意欲的で、またその能力を保持した、次世代を担う教育者・研究者・職業人となりうる人材を育成するため、学部課程から博士課程までの連携した教育を行う特別な教育課程とする。

2. 各専門分野における「期待される学生像」

各専門分野における「期待される学生像」は[表1]のとおりである。出願に当たっては、よく留意すること。

3. 次世代育成プログラムの構成

このプログラムは、学部プログラム、修士課程プログラム、博士課程プログラムによって構成される。

- ・学部プログラムは本学文学部の学生のみ履修できる。
- ・修士課程プログラムは、学部プログラム修了者を対象とする。
ただし、修士課程プログラムに特別選抜枠を設け、学部プログラムを履修していない学生も対象とする。
- ・博士課程プログラムは、修士課程プログラム修了者を対象とする。

4. 修士課程プログラムの内容と修了要件

- ・上記目的を達成するため、学生は[表2]の修士課程プログラムから6単位以上を履修する。
- ・学生は各専門分野に所属したまま、修士課程プログラムを履修する。
- ・修了要件は研究科と卓越プログラム双方を満たしていることを必要とする。

5. 出願資格と出願方法

(1) 学部プログラム修了者

- ・学部プログラムを修了見込みであること。
- ・令和5年度大学院修士課程入学試験に出願していること。
- ・令和4年12月16日(金)17時までに「修士課程プログラム履修生申請書」を、東京大学大学院人文社会系研究科・文学部学生支援チーム(大学院担当)(以下、大学院担当)に提出すること。

提出方法は、本研究科国際卓越大学院のホームページからダウンロードした様式により、ファイルを下記のアドレスにアップロードすることとする。

https://webfs.adm.u-tokyo.ac.jp/public/GuoGAB5J7cG9cUV26GhcxQX5ELjkM2OrV4eT0_bBea-k

- ・卓越大学院学部プログラム生を辞退して、一般の学生として大学院入学を希望する者は、辞退願（A4・様式自由）を「修士課程プログラム履修生申請書」の代わりに提出すること。
- ・大学院入試に不合格となったものは、次年度以降修士課程プログラム履修生に出願することはできない。

（２）特別選抜枠

- ・他大学の学生及び学部プログラムを履修していない本学の学生が、大学院入学試験で極めて優れた成績を収めた場合、修士課程プログラムの履修を認めることがある。履修を希望するものは、令和4年12月16日（金）17時までに「修士課程プログラム履修生申請書」を大学院担当に提出すること。

提出方法は、本研究科国際卓越大学院のホームページからダウンロードした様式により、ファイルを下記のアドレスにアップロードすることとする。

<https://webfs.adm.u-tokyo.ac.jp/public/kuoFAfBJrcGMBkaonRLTzYXMU1c9NW0sr5b6jmx3SEeT>

- ・夏季入試合格者（学部プログラム履修者を除く）が修士課程プログラムの履修を希望する場合、「卒業論文若しくは卒業論文に代わる論文」を新たに提出すること。提出に際しては、募集要項補足説明（12頁）「3.「卒業論文若しくはそれに代わる論文の提出について」に従うこと。

提出方法：提出は「郵送」に限る。郵便局で「書留郵便」と指定して下記9. 問い合わせ先に送ること。郵送にあたっては、封筒等は各自で用意し、封筒の表面に「夏季入試合格者卓越大学院用論文在中」と朱書きすること。

提出期間：令和5年1月10日（火）から1月13日（金）（必着）まで。

6. 定員及び選抜方法

- ・受入定員は12名（うち特別選抜枠2名程度）とする。
- ・研究計画（卓越大学院申請用の様式を本研究科国際卓越大学院のホームページからダウンロードして使用）、卒業論文（卒業論文に代わる論文を含む）又は特別演習（文学部卒業者、卒業見込者のみ）、大学院入試の成績等により選考する。
- ・合否判定結果は、令和5年3月13日（月）（予定）を目処にメールにより通知する。なお、大学院一次試験及び二次試験に合格しなかった者には通知しない。

7. 卓越リサーチ・アシスタント（卓越RA）

- ・合格者には、卓越RAを委嘱し、指導教員の指導の下に研究プロジェクトに参画してもらう。
- ・委嘱期間は最大24か月とし、報酬として月額15万円（予定）を支給する。
- ・日本政府奨学金留学生及び交流協会奨学金留学生には、卓越RAを委嘱しない。
- ・日本学生支援機構海外留学支援制度給付型奨学金との重複受給は不可とし、授業料免除（延納・分納）は申請可とする。

8. 博士課程プログラムへの出願と進学審査

- ・博士課程プログラムに出願しようとする者は、修士課程2年次に日本学術振興会特別研究員（DC1）に応募しなければならない。ただし、採択されることを出願条件とはしない。
- ・進学には、各専門分野が実施する博士課程入進学試験に合格することに加えて、博士課程進学審査（QE）に合格することを必要とする。QEは、研究計画、修士論文、大学院入試の成績及び専門分野主任の評価書により、博士課程プログラムを履修するのに必要な学力、専門知識、研究遂行能力を具えているか否かを審査するものとする。

9. 問い合わせ先

〒113-0033 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学大学院人文社会系研究科

・文学部 事務部 学生支援チーム(大学院担当)

電話：03-5841-3712（内線23712） E-mail:in@1.u-tokyo.ac.jp

表1 期待される学生像

専門分野名	期待する学生像
言語学	人間(ヒトという種)に特有のあらゆる活動の基盤にある言語について、言語学(および隣接諸分野)が明らかにしてきた知見を深く正確に理解し、それに基づいて諸言語の現象を適切に分析することを通して、言語の(ひいては人間の)多様性と普遍性の解明に貢献しうる人材を養成することを目的とする。
考古学	理系諸科学と歴史科学の総合として始まった考古学は、近年理化学分析や情報科学等との密接な関係がより重要となり、高度の分野横断型で学際的な知識と能力の獲得が必須となった。さらに高い語学力に基づいた国際的な研究成果の発信能力も期待される。それらを兼ね備えることが次世代研究者には求められる。
美術史学	美術作品および造形一般に関し、熟覧調査に基づく優れた形態分析能力と文献史料の精確な読解能力とを兼ね備え、これらを統合した豊かな歴史像を描くことのできる人材。また、幅広い時代や地域に対する関心をもち、卓越した研究成果を国内外へ積極的に発信することも求められる。
哲学	哲学専門分野は、高度な語学能力、および原典・研究文献の読解力を身につけた上で、関連諸分野の研究にも積極的に目を向けながら、哲学の問題をきちんと立て、方法に則って自ら思考を展開できる能力と技法を培い、研究成果の国際的な発信について意欲的な学生を求める。
倫理学	倫理学専門分野は、倫理に関して、人間の認識・感情・意志という観点から、言語表現を通じて根源的に理解することを目指して教育・研究を行う。とりわけ卓越大学院学生に対しては、広い視野を獲得して、先端的な新領域を開拓して、真の意味で現代の諸問題の解決に寄与しうる人材たることを期待する。
宗教学宗教史学	研究対象となる文献を読解・分析する高い語学能力を身につけ、宗教学の方法論を習得すること、それをさらに発展させて独創的な研究を遂行し、研究成果を国内外に対して着実に発信できるようになることが期待される。
美学芸術学	人類文化における芸術活動および美意識の地位が、文明全般における「文化」の地位に相似である、という構造的事実を踏まえつつ、文明への自覚的認識と表現実践を先導し、人間的価値の創出への寄与、価値観の変動への対応、価値概念への反省など、多方面における文化的貢献のできる人材を養成する。

死生学応用倫理	死生学と応用倫理が対象とする事象を学術的かつ包括的に理解するための幅広いディシプリン、語学能力を修得し、斬新な研究方法と新たな研究分野を自ら開拓してユニークな研究を行う能力を持つ学生を求める。
心理学	心理学の基礎的分野における優れた研究能力を備え、同時に広い視野に基づいて人間知に関する根源的理解をめざし、先端的な新領域の開拓、国際的な発信について意欲的であり、次世代を担う教育者や研究者となりうる人材。
日本語日本文学	<p>日本語日本文学（国語学）</p> <p>日本語研究の諸分野にわたる広い視野を持ち、専門とする分野では、緻密な資料分析の能力も地道に修練し、それをもとに、旧弊にとらわれず、大胆に自分の見解を主張するとともに、積極的に海外の学会、研究者とも交流できるだけの語学的能力も兼ね備え、国内のみならず海外の学界でも肩を並べられる研究者となりうる人材を求める。</p> <p>日本語日本文学（国文学）</p> <p>国文学研究に主体的かつ意欲的に取り組む姿勢を基本として、狭い領域に閉じこもらない広い視野をもち、従来の方法を大きく更新する独創的な研究を展開することによって、学界を主導する役割を担う人材を育成することを目標とする。</p>
日本史学	国内における日本史学の成果を外国語で発信し、外国語による歴史研究の成果の一定の理解を前提に外国人研究者と学術交流し、その成果を国内に還元できる人材を育成する。そのため、日本語による水準の高い実証研究と外国語の能力を有し、その練成に積極的に取り組む学生が望まれる。
中国語中国文学	中国語学・中国文学の分野において専門的な知識や手法を十分に習得すると同時に、広い視野から専門分野の研究の役割や意義をとらえる力を涵養し、それによって専門分野のみならず、関連する人文学の諸分野において、未来に継承される新たな学知を生み出すことを目指す者。
東アジア思想文化	中国を中心とする東アジアの伝統文化に対して深く周到な基礎知識を有し、思想文献に重点を置きつつも経（儒教経典）・史（史伝）・子（諸学派）・集（詩文）の四部の伝統文献を偏りなく読みこなす能力をそなえ、東アジアの思惟に対する正確な理解を多方面に活用できる人。

インド文学・インド哲学・仏教学	南アジアから東アジアにわたる幅広い地域の精神的な文化に関心を深め、サンスクリット語、パーリ語、チベット語、古典漢語等の言語を十分に修得し、それぞれの地域に伝わった、それらの言語で記述された資料を正確に読解し、堅実な研究のできる人材の育成を目指す。さらには、それらの資料群を通じて現在に伝えられる思想及び実践を、現代的な視点から再構築できる能力を持ち、かつそれらの研究成果を、国内外に積極的に発信できる意欲的な研究者となることが理想である。
イスラム学	クルアーン解釈学、預言者伝承学をはじめとするイスラーム諸学についての正確な知識を習得したうえで、イスラーム諸学の分野において世界的に見て高水準の研究業績を上げ、イスラーム研究の発展・深化に寄与することのできる人材を求める。
アジア史	対象とする地域の歴史について深い理解をもち、それを広い文脈のなかで考察することにより、新たな学問的領域・手法を開拓し、国際的に学界を牽引していくことのできるような能力を有する教育者・研究者となることが強く期待される。
西洋古典学	人間とは何かという根本問題に対して、古代ギリシア人とローマ人が残したものと、それに関する後世の人々の考察、これ以外のことには目を瞑って思考できる学生を求めています。その成果を博士論文の形でまとめてデフェンスできたならば、専門の領域でもそれ以外の領域でも相手に負けることはありません。
フランス語 フランス文学	フランス語フランス文学の分野において、原典・資料の緻密な読解力および卓越したフランス語運用能力を備え、国際的水準において活躍できる人材を育成するとともに、専門的な知見に立脚しつつ分野を超えた文化活動を展開できるような、次世代を担う人材の養成を目的とする。
南欧語南欧文学	イタリアの言語と文学に関する堅実な知識と明確な問題意識を基礎として、資料や文献を精査し、得られた情報を論理的に組み立て、説得的に自説を表現すること。この目標の達成を目指すとともに、歴史社会的背景やロマンス諸語等にも旺盛な関心を抱く学生を求める。
英語英米文学	英文研究室では、文学・言語のセンスをみがきながら熱意を持って課題に取り組むとともに、自らの考えを英語で表現していくのが普通のことだと思えるようになることを期待します。
ドイツ語ドイツ文学	ドイツ語ドイツ文学の学習・研究は、何よりもドイツ語の精緻な読解力に基づくものである。地道な努力を厭わず、できるだけ多くの優れた、そして含蓄の深い文章に触れて欲しい。そして同時に、様々な分野に対する知的関心を持ち続け、自分の思考の力を鍛え上げることに喜びを見出して欲しい。

スラヴ語スラヴ文学	多様性に富んだスラヴ世界の言語文化研究において、積極的にさまざまな言語を学び、文献読解、幅広い知識の習得およびグローバルな文脈で問いを立てる能力に優れた研究者を育成する。異なる研究領域についても関心を持ち、国際的な研究ネットワークに参画し、積極的に議論を進め、新たな研究の発展に貢献するようになることを目指すが期待される。
現代文芸論	欧米の近代を中心に複数の言語を用いて、世界の文学を広い現代的な観点から研究を自律的に進め、国際的な発信について意欲的で、次世代の文学研究を担いうる者。
西洋史学	本専門分野は、鋭い問題意識にもとづき、原史料の広範かつ着実な調査を踏まえ、明晰な論理構成に支えられた研究を遂行することで、西洋史学における新知見を生み出し、またその成果を国際的に発信できる力量を備えた学生を養成する。
社会学	社会学専門分野において期待されるのは、現実社会の諸問題に対し、経験的調査の手法と理論的な分析方法によって、既存の枠組みを越えた斬新なものを見方ができる学生である。社会学的研究の最前線に立って学問的、社会的に活躍できる人材を求める。
社会心理学	社会心理学領域に関する高度に専門的な知識と研究遂行能力を保持するとともに、人文学、社会科学、工学、自然科学諸領域の研究者や実業界とも連携して、先端的な学問領域を開拓し、その成果の国際的発信や社会還元積極的に取り組む研究者・実務家として活躍できる人材。
文化資源学 文化経営学	文化資料体（文献資料、歴史資料、美術資料、考古学資料、文化調査資料、文化統計資料等）に関する分野横断的な研究能力を備え、博物館、美術館、劇場など文化関連諸機関との協力関係を積極的にリードしながら、文化資源の開拓や発展を推進できる人材を育成する。
韓国朝鮮歴史文化 韓国朝鮮言語社会	過去から現在に至る韓国朝鮮文化および周辺地域との交流について各自の学問分野の方法論を創造的に用いて探求するとともに、当該学問分野のみならず関連する諸分野の方法論を複合的に用いて新たな韓国朝鮮学の学問体系を定立し、韓国朝鮮学の研究の発展に寄与することのできる人材を育成する。

表2 修了要件

プログラム	授業科目等	修了要件		備考
学部 プログラム	[選択必修科目] ○人文社会系研究科開講科目 ・大学院・学部共通科目可 ・論文指導科目不可	6単位以上 ただし、演習科目 4単位含む		
修士課程 プログラム	[必修科目] ◎学術活動課題演習（国内外での活動）	1単位		
	[選択必修科目（A群）：新領域開発] ○多分野交流演習 （全専攻共通選択必修科目） ○死生学研究・応用倫理研究 ○人文情報学 ○他研究科開講科目	1単位 以上	5単位 以上	
	[選択必修科目（B群）：国際発信系] ○アカデミック・ライティング（英語） ○新・日本学	1単位 以上		
博士課程 プログラム	[必修科目] ◎学術活動課題演習（国外での活動） ◎異分野共同研究演習	1単位 1単位		
	[選択必修科目（A群）：新領域開発] ○多分野交流演習 （全専攻共通選択必修科目） ○死生学研究・応用倫理研究 ○人文情報学 ○他研究科開講科目	1単位 以上		3単位 以上
	[選択必修科目（B群）：国際発信系] ○アカデミック・ライティング（英語上級） ○新・日本学 ○外国の大学の大学院で取得した単位	1単位 以上		